

小学校低学年における外国語活動授業づくり

～子どもたちが外国語活動を楽しみと思える外国語教育～

中村 正雄

平成 32 年度から小学校中学年において外国語活動が必修となる。しかし、低学年においては学習指導要領や教科書はなく、中学年につながるような外国語活動が求められている。その中で 1 番大事なことは低学年時に外国語活動が嫌いな子どもを出さないことだと考える。したがって子どもたちが外国語に親しみ、楽しく外国語を使うことこそが、中学年への接続と考え、研究を行った。

キーワード：外国語活動、低学年、アクティビティ

1. 研究目的

小学校低学年時(2年生)における外国語活動の実践をととして子どもたちが親しみながら外国語を使っているのかをみとりながら進めていく。FRT と授業の相談をし、子どもたちが外国語を使いながら活動できる取り組みにはどのようなものがあるのかを検証していく。特に低学年時の子どもたちに合ったチャンツや歌・アクティビティに焦点を当て、研究していく。そして研究仮説を『子どもたちが楽しみながら活動できる場やアクティビティを設定することで外国語を使おうとする探究力がはたらくだろう。』とした。

2. 研究方法

本研究では、外国語活動の中で年間の学習内容 (FLT 作成) に沿いながら子どもたちが外国語を使って楽しく活動できる取り組みを研究する。授業後には①外国語活動の授業は楽しむことが出来たか②外国語をたくさん使うことができたか③自由記述の3つの観点の振り返りを行う。これは低学年における外国語活動は親しむことを主な目的とし、そこに外国語を使う要素をしっかりと取り入れることが重要だと考えたからである。また、自由記述については使えるようになった外国語を書く、楽しかったことや知りたい外国語を書く場所として。子どもたちの振り返りから今後有効な活動や取り組みを見定めていく。

3. 1. 授業の実際と考察

まず、外国語活動の学習において大まかな流れをつくった。外国語活動の時間では、国語や算数と違い教師主導になりやすく、次にどんな活動をするのか不透明である。よって大まかな流れを作り、視覚化したものを提示することにより、次の活動がイメージしやすくなると考えた。授業の流れは以下のとおりである。

1. Stretch ストレッチ。外国語活動の始めにみんなで動作を交えて行う。

2. Greeting 名札を配って次の友だちを呼ぶ。その次に「What's your name?」や「How are you?」など簡単なあいさつをする。
3. Song・Chant 歌。チャンツ。
4. Review 復習。単語などの学習を行う。(practice)
5. Activity 歌・チャンツ、または学習した単語を使った活動を行う。1学期は単語を使ったビンゴやインタビューゲームなどを行った。
6. ABC book アルファベットの大文字と小文字を色で塗る。文字感覚を養う。
7. reflection 授業で使えるようになった言葉や楽しかったことを振り返ったり、知りたい言葉について書いたり子どもたちの興味や意欲などをワークシートからみとる。

今までの授業では、ローマ字で名前を書いた名札を1人1人教師が配っていた。しかし、子どもたちの外国語を使う機会と友だちとのやり取りを増やすために子どもが次の人を呼んで名札を渡すようにした。それには必ず1言つけるようにした。学習した表現を使って実際に友だちとやり取りすることで言語感覚やコミュニケーション感覚を養うことにつながると考えたからである。

たまよ：What's your name?

けんじ：My name is Kenji.

たまよ：Here you are.

けんじ：Thank you.

さき：How are you?

もも：I'm fine.

さき：Here you are.

もも：Thank you.

低学年という発達段階も考え、HRTとFLTは子どもたちに付き、言いにくい子どもをフォローする。子どもたちが、相手に自分の言葉が伝わったとき、少し恥ずかし気だが、嬉しそうな表情をしていた。中学年を見据えて簡単なやり取りを継続して行うことにより、抵抗感なく外国語を使おうとする姿が見られると感じた。

3. 2. 子どもが生き生きと活動できる単元設定

ここからは2年生外国語活動の実践を例に挙げて述べていく。子どもたちに付けたい力(学習内容)を中心に、興味をもって取り組むことが出来るよう、単元づくりを行った。学習内容としては①色(color)②果物や野菜(fruits and vegetables)③動物(animals)を簡単な文とともに学習するように考した。この3つの学習内容を「2A ゆうえんち」と題し、それぞれアクティビティを楽しみながら外国語に触れることが出来る場を設定し学習を始めた。

◇単元の目標

今まで学習した内容(動物・色・野菜や果物)を使って楽しみながら外国語に親しむことができる。

◇単元計画(全4時間)+学級活動2時間

【2A ゆうえんちであそぼう】

第1時 「どうぶつ園へいこう」

- ・身近な動物の外国語での表し方を知り、慣れ親しむことができる。

第2時 「かんらんしゃにのろう」

- ・様々な色の外国語での表し方を知り、慣れ親しむことができる。

第3時 「買い物しよう」

- ・果物や野菜や数の外国語での表し方を知り、慣れ親しむことができる。

○学級活動【2A ゆうえんちのあそびを考えよう】

- ・2A ゆうえんちで遊びたいアクティビティを決めたり、道具を作ったりする。

第4時 「2A ゆうえんちであそぼう」

- ・今まで学習した内容(動物・色・野菜や果物)を使って楽しみながら外国語に親しむことができる。

「ゆうえんち」というテーマを設定し、各授業でのアクティビティを遊園地に関連するような活動にした。また、学級の時間を使い、自分たちでさらに深めたいことを話し合うことでみんなで作って上げていく外国語活動を目指した。

3. 3. 子どもたちにとって魅力的なアクティビティ

ここでは実際に行ったアクティビティを紹介する。

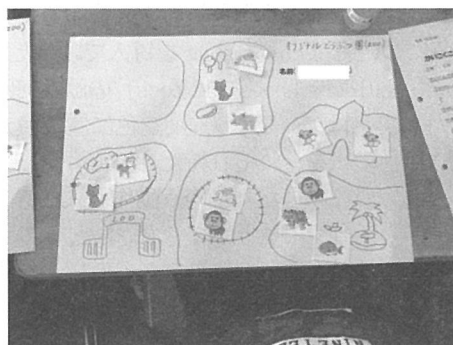
①オリジナル動物園作り

オリジナル動物園作りでは、「rock, paper,

scissors, one two three」のかけ声でじゃんけんをし、勝ったほうが自分の好きな動物を言う。(図1)「Cat, please.」負けた人がその動物のカードを取ってきて渡すというアクティビティである。カードは、自分の好きな場所(ワークシート)に貼ることができる。(図2)このアクティビティの特徴は動物を自然な形でどんどん使うことが出来るところにある。外国語を言わされているのではなく、自分の好きな動物を「言いたい」という気持ちを刺激することが出来る活動になった。



【図1 ペアの子と活動】



【図2 動物カードを貼ったオリジナル動物園】

②お題カードを使つての買い物

このアクティビティでは主に野菜や果物を外国語で言うことを目標に行った。果物は学習済みであったので野菜について扱う単語は2年生という学年を考慮して8種類に絞った。

買い物活動では、基本のフレーズとして「tomato, please.」といった「野菜(果物)の名前+please」をおさえて、お店役とお客役に分かれて買い物を行った。また、買い物時にお題カードを用意し、引いた野菜や果物を注文することとした。用意したカードには「potato」「potato and cabbage」「potato and cabbage and eggplant」などと1~3種類を注文するようにした。また、発達段階を考えて単数系のみを扱った。子どもたちは、最初は緊張していた様子だったが、段々と意欲的に外国語を使い、活動する様子が見られた。

この活動の大きな利点はお店側と店員側に分かれることで行うことが出来るやりとりにある。低学年の学習では、役割演技という手法を使うことがある。実際にそれぞれの役割に立つことで自然と会話が生まれ、や

りとりができる。低学年時での会話(conversation)は子どもたちにとって難しいが、役割演技を取り入れることで自分の知っている単語を使おうとする姿や、友だちに尋ねたり、教えてもらったりと他者との関りが生まれる。結果として外国語を使って上手く買い物ができる時の達成感を子どもたちの表情から窺うことが出来た。



【図3 お店とお客に分かれての買い物活動】

③色の観覧車

色と Do you like~? の学習を観覧車の模型を使って行った。色については color song を導入で歌った。今まで「head shoulders knees and toes」の歌は何回も歌ってきたので、体の一部分の言葉を色に置き換えて行った。また、色の紙をそれぞれ持たせ、立ったり、上に掲げたり、回ったり、座ったりという動作も入れることで楽しみながら活動することができた。また、色のカードをお友だちと交換し、立つ動作のタイミングをずらすなど、違うパターンでも行うことで様々な色に慣れることができた。

アクティビティでは、色のついたゴンドラが8つある観覧車を使って、好きな色をあてる活動を行った。お店役の人好きな色のゴンドラにボールを入れ、ボールが入ったところをお客さんが当てるというシンプルな活動であった。(図4)



【図4 観覧車を使った色当てゲーム】

この活動の大きな特徴は外れた時に「No, I don't」と言わなければならないことである。インタビューなどの活動の場合、「好きですか」の問いに対して「Yes, I do」の回答が多く、難しい「No, I don't」は使う機

会が少ない。(もしくは使うのを避ける子が出る)しかし、外れたことで必ず「No, I don't」を言うことで、どちらの表現にも言ったり、聞いたりする機会が増え、自然と表現に慣れていくと考えた。

3. 4. 子どもたちでつくる外国語活動

子どもたちにとって楽しいと思える外国語活動にするためには重要な要素がある。その1つが教材と子どもたちの距離が近いということである。「2A ゆうえんち」とテーマを設定したこともそうだが、子どもたちの声に耳を傾けクラスで外国語活動について話し合うことでよりよい活動につなげることが出来る。本実践では、学級活動の時間を使って外国語の授業についてみんな考えた。きっかけは学級裁量の朝活動の時間に「先生、もっと言葉(外国語の単語)を増やそうよ」と子どもが発言したことから始まった。また、話を聞いていくうちに買い物の活動についても「あいさつを入れてみたらもっと良くなる」という意見が出たので学級活動の時間に話し合った。

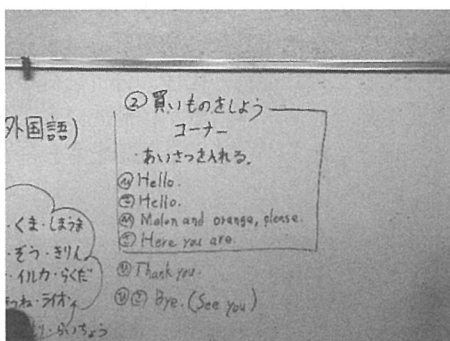
オリジナル動物園作りでは、外国語で知っている言葉を出し合った。(bear, dolphin, lion)などたくさんの動物の名前が出た。中には難しい言葉もあったため、みんなが使いやすい言葉を選んで授業に取り入れることに決めた。

買い物活動では、「あいさつを入れる」という意見が出たので、実際に役割演技を入れてやってみた。以下学級の時間での話し合いである。

あきと：外国語で買い物するとき「Hello」ってあいさつをいれたらどうかな。
れい：片方だけ言ったらおかしいからどちらも言ったほうがいいよ。
みれい：そういえば、FLTの先生が言ってたように渡す時に「Here you are」って言ったらいいんじゃないかな。
教師：じゃあ、一度やってみましょう。
(つとむとあやかを選ばれる)
つとむ：Hello.
あやか：Hello.
つとむ：Melon and orange, please.
あやか：Here you are.
教師：上手にできたね。
みほ：先生、もらったらお礼を言わないとだめだから「Thank you.」って必要だよ。
かりん：その後に「Bye.」「See you.」っていれてみても大丈夫？

始めに「Hello」とどちらもあいさつした方がいいよ。渡す時はFLTが言ってたみたいに「Here you are」といいたらいいんじゃないかな。もらったらお礼を言わ

ないとだめだから「Thank you」と言ってみようという意見が出た。驚いたのが、授業では取り扱っていないのだが、買い物が終わった後にさようなら「Bye」や「See you」を入れてみたはどうかという意見が出たことであった。役割演技を通したことによって、より子どもたちが日常の会話に近い形式で外国語を楽しもうと探究する姿が見られた。(図5)



【図5 アクティビティを自分たちでより深める】

これを受けて動物「fox, dolphin」・野菜「green pepper, eggplant」・果物「lemon」の単語を増やし、動物園の絵と買い物のお題カードを作った。買い物活動のお題カードは、野菜と果物を両方書いてもよいこととし、1つまたは2つの物を書くように指示した。名前も壁の掲示物(学びの足跡)を見ながら外国語で書く姿が見られた。教材と自分が近づくことでより外国語活動との距離が縮まり、自分たちが作った動物園や買い物のお題カードを使って活動することを楽しみにしている様子であった。

以下第4時で学習した後の2年生の振り返りである。

第4時の振り返り表	たいへんできた	できた	できなかった
楽しく活動できたか	25人	3人	0人
外国の言葉をたくさん使うことが出来ましたか	26人	2人	0人

- ・ Here you are. が上手くできたのでもっと上手になりたいです。
- ・ 動物の英語や渡す言葉を使えてよかったです。
- ・ 新しい動物が増えてとても楽しかったです。
- ・ 上手くできたことは挨拶をいっぱい出来たことです。
- ・ 英語をたくさん使えて良かったです。

4. 成果と課題

本研究の成果としては以下の2点がある。

1点目は、低学年時における外国語活動はやはり子どもたちが母語ではない言語に慣れ親しむことが重要だと感じた。

慣れ親しむことが出来るには歌やチャンツが非常に有効である。というのも学級裁量の朝活動の時間に color song を歌うだけで、自然と日常でも外国語が出てくるようになった。また、歌もテンポを変えたり、動作を加

えたりすることで何回も繰り返し行うことが出でき、子どもたちにとっても楽しい活動になった。少しずつ日常的に外国語に触れる機会をとることで外国語に対する抵抗感が減ってくると考える。中には休憩時間に外国語の歌を歌う子どもが増えてきて、教師の代わりに伴奏をする子どもも見られるようになった。

2点目は、子どもと学習すること(教材)との距離を縮めることにより、より楽しみながら多くの外国語に触れることが出来ると分かった。そのためには他の教科・領域と関連させることが有効である。そうすることによって外国語に触れる時間が増え、自分たちがもっと楽しく活動できるように工夫することができるからである。自分たちで外国語活動をつくっていくことの面白さも大事であると思う。

また、ゲーム性を持たせたり友だちとの会話ができるアクティビティを設定したりすることも重要である。子どもたち同士のやりとりを外国語で行うことにより伝わった時の嬉しさや出来るようになった達成感が非常に大きい。いかに子どもたちが教材と向き合える場を設定し、自分の言葉が伝わった時の喜びを体験させることができるのかが学習意欲につながると考える。

課題としては、低学年時の外国語活動において教科書や指導要領がない分、指導計画を立てるのが難しいことにある。子どもたちの実態を踏まえ、興味・関心が持てるような取り組みを考えることが重要である。また、今回の実践では子どもたちが授業で取り扱った言葉以外にも子どもたちが知っている言葉が非常に多かった。しかし、外国語に慣れていない子どもにとって単語数を増やしすぎると難易度が上がり、分からないままの学習に繋がってしまう恐れがある。小学3年生への接続と子どもたちの実態を踏まえ、教師側がしっかりと扱う内容を見定めておくことが非常に重要であると感じた。また、どうしても教師主体の活動になってしまうため、習ったことを生かせる機会を保障することも取り入れていくべきである。そうすることで子どもたちが主体的に活動し、「外国語をもっと使いたい」という気持ちにつなげることが出来る。

学習を進めていく中で重要だと感じたのが、低学年の子どもたちがまず外国語に親しみ・楽しむことである。これが1番重要であると考え。その中に習った表現や他者とのかわりがあり、外国語を使う場面がしっかりあることが魅力ある授業の要件であると思う。

今後、子どもたちが「外国語活動って楽しいな。」「もっと色々な言葉を知りたいな、使ってみたいな。」と思えるような取り組みを考えていきたい。

参考文献

- Keiko Abe-Ford(2000) Let's Sing Together APRICOT
樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉恵美子(2017)
小学英語指導法事典 教育出版
樋口忠彦・衣笠知子(2004) 小学校英語活動アイディアバンク